

研究主題

「いきいき わくわく みんなで取り組む 岩美っ子」

～仲間との豊かなかかわりを通して運動する楽しさを実感できる体育学習～

1 研究主題及び研究について

平成27年度は、第53回中・四国小学校体育研究大会（愛媛大会）において、「日常的に取り組める運動を通して、自ら進んで体力を高める子どもを育てる」をサブテーマに「体づくり運動（多様な動き・体力）」領域で実践発表を行った。

その後、平成28年度よりサブテーマを一新し、「仲間との豊かなかかわりを通して運動する楽しさを実感できる体育学習」として昨年度は「器械運動（跳び箱運動）」領域での研究を進めてきた。

当日の授業では、iPadを活用して友達同士で映像を撮り合い、その映像を示しながら活発にアドバイスをしている児童の姿が見られたり、できなかった技ができた友達と抱き合って喜び合っている姿が見られたりするなど、今年度のサブテーマに迫る授業であった。

そして、その成果を他の領域でも活用することを考え、今年度は「表現運動」での実践を行った。この領域でも大きな成果を上げることができたと考える。

岩美郡小体研は人数が少ないが、それゆえに思い切った取り組みを実践できる良さがある。今後も、様々な取り組みを行うことで、体育学習の新たな可能性を探っていきたいと考える。

2 具体的な取り組み

5月 2日（火） 第1回部会 研究テーマ・事業計画・役員決定

12月 8日（金） 岩美郡小体研授業研究会

第5学年 器械運動（表現運動）

「心も体もシンクロさせよう 表現運動」

授業者 岩美北小学校

西谷 亮祐

南場 雄介

指導助言 岩美北小学校校長

谷口 謙

「心も体もシンクロさせよう。表現運動」の実践を通して

岩美町立岩美北小学校 西谷 亮祐
南場 雄介

1 はじめに

本研究では、「いきいき・わくわく・みんなで取り組む 岩美っ子」をテーマに研究を進めている。ここ数年は、「体づくり」「体ほぐし」の領域での実践を行い、中四国大会で発表した。その成果の一つとして、「運動への目的意識の持たせ方を工夫すれば、意欲の高まりがみられた」ことが挙げられる。

そこで、昨年度は、器械運動においても目的意識をはっきりさせることで意欲を高めたいと考え、2つの仮説を立てて実践を行った。



1つ目は、

学習内容を明確し、個々の課題を意識するための指導方法や支援の仕方を工夫すれば、意欲が高まり、「できる」「わかった」をより感じる事ができようであろう。

昨年の実践では、学習内容を明確にしたことで、児童一人ひとりが、技のポイントを明らかにして学習に取り組むことができた。特に、模範となる動きとしてNHKの番組を視聴することが効果的であった。

2つ目は、

仲間とのかかわりの場面を工夫すれば、互いのよさに気づくことで高め合うことができるであろう。

昨年の実践では、積極的にかかわれるようなグループ編成などの工夫を行うことで、意欲を持って学習に取り組み、互いのよさを認め合うことに大きな成果があった。

今年度も前述の仮説を継承し、表現運動においても実践を重ねることにした。

2 研究の実際

(1) 学習内容の明確化

①表現の目的をはっきりとさせる

表現運動は、高学年児童にとっては、成長段階の特性からして苦手意識を持っていることが多い。何のために表現運動をするのか理解できないことも少なくない。そこで、本校の伝統として伝わっている手旗信号を使ったダンスを用いて表現運動をすることにした。このダンスは、8拍子のリズムに乗って、左右の手に持った旗を動かすものであり、毎年6月に行われる運動会で披露している。自分たちで創作したダンスを運動会本番で披露するという目的意識を持たせることで意欲を持って取り組めるようにした。

②内容を明確化する

前年の器械運動での実践では、動きのコツをはっきりと自覚することで大きな成果を上げることができた。そこで、表現運動でも「大きく」「シンクロ」「笑顔」を合言葉にして、動きのコツを提示した。そして、具体的に動きをイメージさせたいと考え、インストラクターの指導を受けることにした。これは、鳥取県の「元気キッズ事業」を利用したものである。

③タブレット端末（ipad）の活用

体育では、児童が自分自身の動きを自分で認識することが難しい。したがって、友だちや教師からのアドバイスを参考にしながら自分の動きを修正していくことになる。ただし、言葉での教え合いには難しさがある。そこで、岩美町に導入されたタブレット端末（ipad）を活用し、動きを動画撮影したものを再生することで、児童相互で教え合いをすることにした。当初は4名に1台を使用していたが、時間がかかることもあり、2人に1台が使えるようにすることで運動量を確保することにした。

④わたしたちの体育の活用

準備運動として、体ほぐしの内容を取り入れた。わたしたちの体育の内容を例示した。

(2) なかまとのかかわりについて

①話し合いの場の工夫

- ・2人ペアで動きを考えた後、2つのペアでグループを作り、それぞれのアイデアを持ち寄ることで、グループでダンスを考えたり、お互いにアドバイスをし合ったりして関わり合う場面で全員が積極的に参加できるようにする。
- ・グループでアドバイスをする際には、視点と点数を示した表（思考ツール）を活用することで意見を言うことが苦手な児童でも意思表示がしやすいようにする。



②グループの組み方の工夫

- ・意図的にグループを作ることで、表現をする際の抵抗感を減らし、児童同士の関わりを増やすようにする。ペアを組む際には、男女のバランスや運動能力、人間関係を考慮しながら組むようにする。ペアを2つ合わせて4人グループを組み、グループとしての動きを選ぶ活動を取り入れることで、話し合いが活発になることをねらった。

（単元の流れと評価の計画）

		1	2	3	4	5(本時)	6	
主なねらい		学習の進め方を知ろう。	曲に合わせて動きを考えて自由に踊ろう。		曲に合わせて手旗の動きを考えて踊ろう。		発表会をしよう	
核となる学習内容		学習の進め方、ねらいの確認	曲からイメージをふくらませて即興的に踊る。		曲からイメージをふくらませて手旗を持って踊る。		連続した手旗の動きを全員でやる。	
学習活動（わかる・できる・ためす）	オリエンテーション ・学習のねらいや進め方を知る。 ・準備や片付けの仕方、約束を確認する。 ・いろいろな即興的な動きを試して、体を動かすことを楽しむ。	体ほぐしの運動・めあての確認						
		活動① 2人や4人のグループでテーマに合った動きを考える。		活動 2人のグループで手旗の動きを考える。		活動① 4人グループで手旗の動きを考える。		活動 グループで考えた動きをつなぎ合わせて、全員で手旗をする。
		・音楽に合わせて動きを考える。 ・話し合いを通してグループの動きを決める。 ・グループの動きを練習する。		・音楽に合わせて動きを考える。 ・話し合いを通してグループの動きを決める。 思考ツール ipad		・話し合いを通してグループの動きを決める。 思考ツール ipad		・グループで考えた動きをつづいて、手旗を完成させる。 ・ビデオに撮影して、よいところ、修正点を話し合う。
		活動② 全体の場で、グループで考えた動きを発表する。		・グループの動きを練習する。		活動② 6人グループで考えた手旗の動きを発表する。		
		・全体の場でグループで考えた動きを発表する。 ・感想を交流する。。				・全体の場でグループで考えた動きを発表する。 ・感想を交流する。。		
		学習のふりかえり						
評価の計画	関		③	④	②		①	
	思				①	②		
	技				①(i pad)			

(3) 評価の工夫

① タブレット端末の活用

児童が創作したダンスを動画として撮影し、話し合いの場面で相互鑑賞することにした。

② 評価カード（思考ツール）の活用

グループでの相互評価の場面では、動きのコツについてカードに記入することにした。また、その結果をタブレットで撮影して記録することにした。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 運動会のダンスを考えるという目的意識を持たせたことで子どもたちが意欲的に取り組むことができた。最終的には、創作したダンスを組み合わせ翌春の運動会で披露できた。

学習内容を明確にしたことで、目指す動きを意識することができ、運動のねらいとする動きが随所に見られた。表現運動は、自由な動きを大切にする実践が多いが、本実践のように、ある程度、目指す姿を例示することも大事なのではないかと感じている。特に、表現運動が苦手な子どもにとっては大変効果的であったと考える。



- ② タブレット端末を活用することで、自分の課題をはっきりとさせることができた。また、上達したことも確認することができるので、意欲を持って学習に取り組むことができ技能の向上にもつながった。
- ③ 意図的にペアを組むことでかかわり合いが生まれ、少人数のグループやペアでの活動としたことで、児童相互のかかわり合いが多く見られた。また、思考ツールを活用することで、話し合いの内容に深まりが見られた。
- ④ 体育では、評価の仕方に大きな課題がある。場がたくさんある中で一人ひとりを見取ることが難しいからである。本実践では、タブレットと思考ツールの活用を行った。タブレットでは、児童の様子を映像として残すことができるので授業後に評価することができた。そして、個々の実態を把握し、次時に生かすことができた。特筆すべきは、タブレットの効果は、想像以上に大きなものであったことである。映像が記録として残ることで、繰り返し複数の授業者での評価が可能になり、評価に客観性が増す。また、評価に気を取られずに授業を行うので、全体に目を行き届かせることができるという良さもあることがわかった。他の領域での活用に大きな可能性を秘めていると感じる。

(2) 課題

- ① 目的や運動内容を明確にし、児童相互のかかわりを生かした実践を行ったが、技能が向上しない児童が見られた。全ての児童に技能を保障するため手立てを考えていきたい。
- ② 運動内容を3つのコツとして提示したが、それがふさわしいものであったのか検討の余地がある。実践を積み重ねていくなかで、よりよいものに変更していきたい。
- ③ 本実践は他校の所有するタブレットを借用した。本校の所有台数は少ないので、今後、より多くのタブレットが活用できるように購入を働きかけていきたい。